



今日から着手できる！ 物流現場改善 メソッド

働き方改革とホワイト物流の推進による物流現場改善は、大きなテーマです。そのためには、現場力の向上やITの導入に力を入れていく必要があります。ただし、ヤミコモに多額の投資を行っても大きな成果は得られません。ここでは物流業務改革に向け、知恵と工夫およびITで物流現場の課題を改善していった事例について紹介します。

知恵と工夫による事例

荷待ち時間の使い方を改善

課題

ドライバーは荷待ち中、開始時刻が分からず待機が続き、合図後に作業を考えるため初動が遅れていた。IT活用も通信環境の悪さや操作する時間の余裕がなく、待ち時間を活かせないまま精神的負担が増えていた。

対策

荷待ち中に確認できる紙の「荷降ろし順チェックカード」を作成。カードに沿って伝票を並べ替え、最初に降ろす荷物を手前に準備し、誰でも同じ手順で開始合図後すぐ作業できるようにした。

効果

- ・待ち時間が「準備時間」に変わり、初動が早くなった。
- ・とっさの判断ミスが減り、荷待ちに対するストレスが軽減。

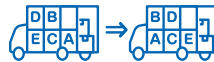
〈改善前〉

- ドライバーは開始時刻が分からず、ただ待つ状態。作業は合図後に考えていた。
- 初動が遅く慌てがちになり、判断ミスも増えていた。

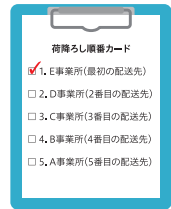
〈改善後〉

「荷降ろし順チェックカード」を作成し、待機中に確認。

- 「待機時間」が「準備時間」に変化。
- 初動の迅速化、判断ミスの減少、ストレスの軽減を実現。



カードに沿って荷物を入れ替え



ITを活用する事例

GPSによる車両追跡アプリを導入

課題

トラックの位置把握が電話頼みで運行が見えにくく、到着予測や荷主企業への対応に時間がかかっていた。また、電話対応が頻発し管理者・ドライバー双方の業務が分断されていた。

対策

車両位置をリアルタイムで共有できる車両追跡アプリを導入し、運行管理者および荷主企業に到着予測・遅延通知を自動化。属人的な連絡を削減した。

効果

- ・荷主企業からの問い合わせが減少し、運行管理者・ドライバー双方の負担が大幅に軽減。
- ・ムダな待機や走行が減り、コスト削減と業務効率化を実現。

〈改善前〉

- 現在は電話連絡だけの把握だったので、運行状況が見えにくかった。
- 到着時刻の予測ができず、問い合わせが多発。電話対応に追われ、運行管理が属人化していた。

〈改善後〉

「車両追跡アプリ」を導入。リアルタイムで運行状況と到着予測を共有。

- ・問い合わせ対応が減少し、管理負担が軽減。
- ・運行の透明性が向上し、信頼性と効率が改善。



鈴木 邦成 (すずき くにのり)

物流エコノミスト、日本大学特任教授、博士(工学)(日本大学)、早稲田大学大学院修士課程修了、日本ロジスティクスシステム学会理事、日本SCM協会専務理事、専門は物流・ロジスティクス工学。主な著書に『物流DXネットワーク』(NTT出版)、『入門 物流(倉庫)作業の標準化』(日刊工業新聞社)。